

**2014年(第16回)全国中高等学生日本語学力競試大会
＜2次大会(スピーチコンテスト)発表原稿＞**

中等部 5名 / 高等部 13名

社団法人 韓日協会

日本語のお陰で出会った人

中等部 정현웅 (鄭玄熊, JUNG HYEON UNG)

皆さん、こんにちは。

紫陽(ザヤン)中学校(ちゅうがっこう)二年(にねん)の鄭玄熊(チョンヒョンウン)と申します。

今日は、私が日本語のお陰で出会った人やもう一度会ってみたい人たちについて話したいと思います。

まず、私が小学校五年生の時の出来事を話したいと思います。夏休みに私は母と一緒にサイパン旅行に行ったことがあります。そこでプールの周りを一人で歩いていたら、どこかで「助けて(韓国語)」と言う声が聞こえてきました。もう一度よく聞いてみると、それは「助けて(日本語)」でした。あるおばさんが浮き輪に乗ってプールの外へ出ようとしていました。でも、水の流れて押されて同じ場所で足をもがいてばかりの状態が続きました。2回目の「助けて」というおばさんの震える声を聞いたかと思うと私の体はいつの間にかプールの中に入っていておばさんの後ろで泳いでいました。泳ぎながらおばさんの浮き輪を押しましたが、思うようにうまく行きませんでした。最初は難しかったんですが、時間が経つにつれて慣れて浮き輪が少しずつ前へと進みました。ご覧の通り当時も今と同じように私の体は小さかったんですが、なんとかそのおばさんを助けてあげることができました。あの時の私は日本語がうまく話せなくてあのおばさんとは何も話すことができずそのまま分かれしました。日本語がうまく話せなくてあの時は無言のお別れをしましたが、ご縁があっていつかサイパンで会ったあのおばさんにもう一度お会いできたら、笑いながらその時のことを日本語でいろいろと話したいと思います。

小学校を卒業して中学校(ちゅうがっこう)に進学する際、私が入れる中学校は二つあったんですが、私は迷いもせずいま通っている紫陽中学校を選びました。紫陽中学校は日本の中学校との交流に積極的だったし、その上放課後には日本語を習うこともできたからです。紫陽中学校を選んだおかげで今の日本語の先生に会うことができました。それから日本語部の皆とも会えました。部員とは日本語以外に日本のアニメ、ゲーム、歌、ドラマなどそれぞれの関心分野について情報を交しあっています。いまは韓国で出会って日本語で話していますが、いつかうちの学校の日本語部の全員が日本のどこかで会って日本語や日本文化について熱く語り合いたいと思っています。

うちの学校は日本の学校との交流も盛んで去年は長崎にある南山中学校の生徒たちとの交流がありました。私の積極的な希望と先生の推薦があって私もその交流会に参加しました。あの時お互いのお土産交換の時間がありましたが、私は日本の友だちに韓国の漫画をあげました。当時のナルト最新版だった六十三冊です。翻訳本もあるので内容はもう知っていたかも知れないが、韓国語を習うにはこれが一番だと思いました。実は私もマンガやアニメで日本語の勉強をしたからです。一方私がもらったのは日本のお菓子でした。お菓子の味もさる事ながら日本語で書かれたお菓子の名前と説明書は日本語のいい勉強材料になりました。これでなんだか小さな民間外交ができたような気がしてとてもうれしかったです。

今日、また私は日本語のお陰でこの場で皆さんに会っています。

皆さん、お会いできて本当に嬉しいです。

私が越えたダイヤモンドのように固い障壁

中等部 조현민 (趙賢旻, CHO HYUN MIN)

こんにちは。サンダン中学校2年生のチョウヒョンミンと申します。日本語を学び、日本に関心がある皆さん。皆さんは日本語を学び、日本の人々と交流する時に難しかったことは何でしたか。私は日本語という言語を学ぶ時にぶつかった大きな障壁と、日本の人と交流する中で、ぶつかった大きな障壁がありました。その二つの障壁を越えていく中で経験した事をこれから紹介したいと思います。

私は四歳の時に偶然にテレビでNHKを見たのですが、私は日本語がわからないのにも関わらず、じっとテレビを見ていたと両親から聞きました。その理由を私が今考えてみると、多分日本語の抑揚が美しい音楽のように聞こえたからではないかと思います。その後、様々な日本のアニメーションに接しながら、日本語を聞いて、真似をするようになりました。その後、7歳から学習誌で日本語を学び始めたのですが、まずは動詞の活用と、学ばば学ぶ程増える漢字の量という、まるでダイヤモンドでできたような大きな固い障壁にぶつかったのです。その中で私は、アニメーションを見ながら聞こえてきたわからない単語を辞書で調べて書いてみたり、何となく意味はわかっても、文法的には分からなかった言葉、教材を見ながら、理解をしたりという努力を通してダイヤモンドのように固かった障壁が少しずつ崩れていきました。

また私が中学生になってから、SNSを通して日本の人たちとの交流を持つようになりました。私は普通の韓国人とは少し違って、日本の文化に接する中で、とても日本びいきになっていたため、日本の愛国者の人たちとの交流が増えました。しかしその中で、偶然愛国者の人とは全く反対の意見を持つ人々とSNSで交流もするようになり、私自身が日本の人々との接し方が良く分からないまま、結局一部の愛国者の人と意見が衝突してしまいました。そのときある日本人の大人の方が、私に日本人と接するときは、言葉に気をつけ、話題にも気をつけたほうが良いと、アドバイスをしてくれました。その後私は日本の人と、接するときにはまず、文化や経済の話を中心にし、もし歴史の話になったら、相手の立場を尊重しながら、話をするようにしています。日本の人と意見が衝突したときは、心が少し痛かったのですが、その後上手にコミュニケーションをとる方法を覚えてからは、日本の人との交流がとても楽しくなり、これが私が越えた二つ目の障壁でもあります。

私は今後高校を卒業したら、日本へ留学し日韓の架け橋となるような医師になりたいと思っています。医師として活動する中で、日韓友好の市民団体にも入り、日本と韓国の人々がお互いを理解し合える機会を社会にたくさん提供していきたいと思います。日本と韓国の間にはまだまだ固い障壁があります。しかしその固さの中にはダイヤモンドのような宝物がたくさん詰まっていると思います。日本と韓国の人々が心を合わせて、前進していくなら、その固い障壁が崩れ、素晴らしい宝物を探し出すことができるのではないのでしょうか。

ご清聴ありがとうございました。

日本語が私にくれた“新しい夢”

中等部 정민지 (鄭珉至, CHUNG MIN JEE)

みなさま、こんにちは。私は紫陽中学校二年生、鄭珉至と申します。

今回、私は日本語を勉強する事になって出会った“新しい夢”についてお話ししたいと思います。

私は、小学校五年生の時に偶然、日本のアニメを見たことが、日本語を知るきっかけとなりました。そして、これを機に日本のアニメに夢中になり、自然にアニメの中の簡単な会話や表現を覚えるようになりました。また、アニメの他、映画などもみるようになり、会話をくり返し聞きながら日本語を勉強するようになりました。韓国語字幕を表示させたり、消したり、勉強方法にも工夫を加え、さらに日本語能力を伸ばしていきました。さらに、もっと知りたいという好奇心からヒアリングの勉強だけにとどまらず「ひらがな」「カタカナ」を覚えるまでになりました。たんじゅんな好奇心で始まった日本語への興味は、いつのまにか私にとって、ゲームのように夢中になれる、そして楽しむことができる言語になりました。

私の日本語の勉強が進み、次第に自身が考えている事を日本語で話せるようになると、他のどんな科目よりも自信がある科目になりました。その後、日本語の勉強を通じて、日本の「文化」にも関心を持つようになり、知れば知るほど楽しんでる自分を発見するようにもなりました。

その結果、日本語を勉強する事になって私は“新しい夢”を持つようになりました。それは、日本の文学を韓国語に翻訳する‘日本文学専門翻訳家’になることです。

元々、日本人作家の文学が好きだったため、日本語を覚えるようになってから、日本の文学を翻訳する仕事をしたいと思ったのです。自分が好きな文学を翻訳する仕事だからこそ本気で楽しめるし、この仕事をやりたいと感じます。

私は日本語でお話をする時や日本語を通訳する時、また日本語の文章を読む時に楽しさ、そして勉強したやりがいを感じます。その度にいつも、実力がもっと上達したように思えうれしくなります。

時々、日本語の勉強が難しいと感じる事もありますが、自分の夢を思い勉強にはげむと難しさもいつのまにか楽しさへと変わっていきました。

最初は好奇心から始まったが進学を本気でなやむようになり、日本語の翻訳をしているしょうらいの自分を想像するといつも楽しい気持ちになりました。

なので私にとってアニメは初めて日本語をせつするきっかけとなり、また自身の夢へとつなげてくれた大切な出会いだと思っています。

すでに日本語は私の夢という言葉になり、進路へとみちびくキーワードになりました。

そんな夢のためにも私はこれからも歩き続け、みじゅくな部分はもっと徹底的に集中して頑張って勉強して行きたいと思っています。

ただ想像だけで終わるのではなく、もっと専門的に日本語を勉強して日本文学専門翻訳家の夢を果たすためにこれからもずっと努力したいと思います。

ありがとうございました。

日本経済と世界化の合いのために

中等部 정대규 (鄭大奎, JEONG DAE GYU)

皆さん、はじめまして。

私は 金海大谷中学校 3 年生の鄭大奎と申します。 単刀直入に言うと私はお金が好きです。なぜならば、お金は私たちの生活に必要なことを売り買いして富を得る元になるからです。

ただお金は物々交換が進化して貨幣経済の時代に入ってから出来た観念が込めてある紙一つに過ぎないのです。しかし私はその紙切れを利用して知識を蓄えて競争しながらここに立つことが出来るようになりました。そういうわけで、私はお金が好きです。

国を動かれるお金、世界を動かれる経済が私が興味を持っている分野です。それで今から日本の経済について話してみます。18 世紀に一度、第一デフレーションを、現在に第二デフレーションを経験しようとしています。昔デフレーションを経験した時、日本の団結力は凄かったと思います。韓国がアイエムエフ (IMF) で苦しんでいた時、金集まりで国民が一つになったと同じように日本も月給を受けないで仕事をまるで精神を修養するように思わせてその状況を外しました。

その他にも日本の努力の根元をみると、第一、輸出する商品を完璧に追求する。第二、国民が勤儉、節約、貯蓄を実践する。第三、'会社は家庭だ' という考えで一つの職場で死ぬまで命をささげて働くなどの心構えで一生懸命に国の経済を復興させました。

しかし今は話が違います。世界化が進むにつれて、日本人は日本のことしか直視することではなく、世界全てのことを直面して抱え込まなければならないのです。それなのに最近の 1980、90 年代の日本は未来のことを直視せず、昔の方法をまもっていて、現在の第二デフレーションを経験するようになりました。こうして早々作られた政策がアベノミクスです。その政策をみれば貨幣をたくさん作って人工的に円安を発生させてから円高を緩和させ、昔の米国のように量的の緩和を選択しました。私はこの政策をみながら、デフレーションを防止し、インフレーションという順風に乗って進んでいく日本経済の巡航がみたいという考えで、円安政策の深刻化を防止する政策が必要だと思います。物凄かった 2008 年の金融危機に相次ぎ、第二の金融危機が勃発するかも知れないです。それゆえに、アベノミクスの円安政策を少しリラックスし、現在凍結の調子の日本経済を見守って選択をしたり、経済の危機を切り抜けるため諸国主義者という悪道に入る可能性もあるから日本が持っているたくさんの借金を棒引きにする必要があると思います。私が話したいのは日本と韓国は同じアジアにある国であるですから、お互い悪口をするだけでなく、仲よくしてほしいです。

わが国は表では日本を批判しますが、心の奥では日本の習合のように見習う面もありますから、もっと私たちの回りの国々を見回して庇って理解してあげなければならないと思います。

どうもありがとうございました。

後悔、そして始まり

中等部 Lim Yun Ho (林潤鎬, LIM YUN HO)

皆さん、こんにちは。洪益中学3年の林潤鎬と申します。

誰でも時間を巻き戻したいほど後悔したことが、一つや二つぐらいあると思います。

喧嘩をしたとき、試験で良くない点を取ったとき、言い間違いをしたときなど、みんなそれぞれ、いろいろな理由があるでしょうが、人はこうやって後悔と共に生きています。

私は小学校の頃から日本のアニメが好きで、いろいろな日本のアニメを見ながら日本語を学びました。そして、今日この場所に立っています。

一年前まで、未来について一度も真剣に考えたことがなかった私ですが、最近、日本語の勉強を本格的に始めてみたいと考えるようになりました。今回、この試験を準備するときも、「もっと早くから日本語の勉強を始めていたらよかったのに……」と自分を責めることもありました。

小学生の時に、将来の希望を書く欄がありましたが、そこにはただ漠然と獣医師や科学者などと書いて提出していましたが、中学生になってから、自分が本当に何をしたいのかが分からなくなってしまいました。

また、何に関しても飽きやすい性格のせいで、何かやりたいことを見つけてもすぐに興味がなくなってしまい、最後には自分が何が好きで、何がしたいのかすら分からなくなってしまっていました。

しかし、今回の試験とスピーチのために日本語を勉強しながら、初めて本当の楽しさというものを感じることができました。そして、「これこそが自分が本当にしたかったことだ」ということに気が付きました。

これまで全く将来の夢のなかった私が、日本語というものに出会い、将来は日本語と韓国語の翻訳家になってみたいという夢ができました。その翻訳とは、ただ単に表面上の言葉だけを翻訳し意味を伝えるだけの翻訳ではなく、日本の文化、日本の美徳、日本人の情緒などまでしっかりと理解した上で、韓国のそれらと照らし合わせて作る、誰もが共感できる翻訳です。

昔、私が見たアニメの中にこんな台詞がありました。

「レースで勝つ馬は、そのレースに参加した馬だ。」

多く人は、過去の過ちにとらわれ後悔するばかり。何かを始めようとするのを躊躇ったり、始めることすらしない人もいます。しかし、私がこうやって自分の夢を持つことができるようになったように、始めることに遅いということもありません。また、努力し続ければ、どんなことでもその努力次第でいくらでも変わるし、変えられると思います。

過去を振り返らず、常に前をみて進む勇気、それもまた一つの新しい始まりだと思いませんか。たとえ今は辛くても、目標を持って諦めずに努力していけば、いつか夢は叶うはずです。私はいつもそう信じています。

皆さんにも夢があると思います。そのきっかけは、何でも、そしてとても小さなものでもいいんです。その夢を叶えるために一つ一つ努力を積み重ねていけば、夢のほうから皆さんに近づいてくると思います。

そして、その夢はかならず叶うことでしょう。

ご清聴ありがとうございました。

ボランティアのやり甲斐

高等部 박유진 (朴裕眞, PARK YU JIN)

みなさん、こんにちは。私はソウル광남高校二年の朴裕眞と申します。

これからボランティアのやり甲斐について、お話したいと思います。

さっそくですが、私は今現在毎週土曜日に、압구정로데오駅で日本人観光客の方々の案内をするボランティアをしています。駅内で道に迷った時や乗車料精算の方法などを案内する仕事です。そこで、本当に色々な経験ができるのですが、正直なところとても疲れることもあります。観光客の案内をすることも、ただ立って会話をするだけの楽な仕事ではなく、駅構内で起こる色々なトラブルに巻き込まれることも多いからです。例えば、販売機の誤作動の八つ当たりをされたり、乗客同士の喧嘩に巻き込まれたこともあります。

ボランティアとは無償で自発的に、困っている人を助けることを言います。無償なので、辛かったらやめてしまっても可笑しくないのですが、それでも私が今まで諦めないでこのボランティアを続けてこられた一つは、これが日本語の実力を活かせる数少ないボランティアであることです。そしてさらにもう一つ、大事な理由があります。それは、ズバリ、感謝の気持ちを込めて、ありがとう、とお礼を言われることです。このありがとう、はきっと褒められるのと同じ効果をもたらすのだと思います。豚もおだてりや木に登る、ということわざがありますね？私はこの機会を通じて、それを痛感しました。人間の言葉とはとても不思議なもので、少し良いことを言われただけでも、嬉しくなり、力が出て、頑張れるようになります。

ある日はこんな事もありました。いつもどおり日本語と書かれている名札を身につけていた私に、ある若い日本人夫婦が話をかけて来ました。何とそのご夫婦息子さん腹痛を起こし、薬を買いに行きたくても韓国語も、英語も全然できなくて困っている、とのことでした。私の管轄は駅構内のみなのですが、そこではどうしようもないので、駅から出て行き、お二人を連れて薬局を探しまわり、やっとの思いで必要な薬を買うことが出来ました。本当に大変でしたが、その時何度も頭を下げながら言われたありがとう、の言葉が今でも忘れられません。これで息子さんの腹痛も治せると思うと、良いことをした、としみじみ感じ、ボランティアのやりがいを感じました。

正直に言えば、私は今まで、ボランティア好きな方々のことを理解できないでいましたが、この時、その心を少しは理解できたような気がしました。また、私がこの時学んだのはこれだけではありません。これからはどれだけ些細なことであっても、助けてもらったらありがとう、と言う習慣を身につけよう、と決意することもできました。このありがとう、を伝えるのは勇気が必要です。ですが、一度勇気を出して伝えてみれば、言った方も言われた方も幸福な気持ちになるという相乗効果をもたらします。皆さんも頑張って感謝の気持ちを伝えてみませんか。きっとお互いニッコリ笑顔になれます。

以上、朴裕眞でした。長い間聞いてくださってありがとうございました。

目標と選択と人生

高等部 권경안 (權璟顔, KWON KYUNG AN)

こんにちは。仁川、東山高校2年クオン・ギョンアンと言います。突然ですが、昨年、全世界を沸かせた歌手サイの'江南スタイル'という歌をご存じでしょうか?ユーチューブでのクリック件数が18億件というこの莫大な数字は、サイの音楽が好きな人達以外にも、彼を知らない人達がインターネット上の人々の反応につられたように好奇心に駆られたために達成された快挙ではないかと思えます。このように何かをしたい、見たい、手にしたいという感情は自分だけの意志によって生まれにくい場合が多いようです。むしろ他人が欲しているものを自分も求めるようになることがあります。

様々な人の考えは、人生の重大な選択にまで影響を及ぼすことがあります。2012年に調査された、韓国の小学生が将来に希望する職業の1位が何だったのかご存じですか?なんとそれは公務員でした。盛んに飛び回り、自分が何をしたいのか自由に考えられる小学生の夢にしてはあまりにも現実的過ぎます。どう考えても両親の期待や大人たちが考える成功の基準が反映されて、そのような選択をすることになったのではないのでしょうか。高校生も同じです。よく言われる名門大学への進学が韓国の高校生の代表的と言われる目標です。そしてまた、恐らく最終的な目標は名門大学入学により得られる職業と安定的な生活であるということです。ですが、それが生活での苦勞さえ経験したことがない大半の高校生が持つ夢と言えるのでしょうか。私はその目標が果たして高校生が自分自身で決めたものだろうかと疑問を感じずにはいられません。本当に自分の意志で決めた目標であるのか、それとも自分の意志とは関係のない第三者の願望であるのか、というようにです。

皆さん、この話は、職業に限らず、私達の未来に焦点を当てて考えてみなければならない問題ではないかと思えます。私達がする決定、例えば、サイのプロモーションビデオを鑑賞するかどうかのような些細なことについては、人の影響を受けても問題はないでしょう。しかし、現代医学で可能になった120年という最長寿命を生きられることを考えたら、人の考えに振り回されて生きて行くには、あまりにも長い時間です。もし、自分の人生において、他人の視線、他人の考えを意識して生きるようであったら、社会的に成功したところで人生の土壇場で後悔が生じないかと思うのです。それは自分の人生を生きたとはいえなくなってしまうのではないかと思うからです。私は自分が本当にやりたいことで人生の目標を立てなければならないと思います。'私の人生をこのように生きたい'という目標があったら、職業は自然に決まっています。例えその職業では金銭的には豊かになれなくても、自分が本当に望んだ人生の目標と合致したら、きっとだれより有意義で幸せな人生を送ることができるのではないかと思えます。最後に、私と同じ青少年たちに伝えたいことがあります。一生の計画は幼い時にあるという孔子の教えの通り、人生の初期にいる私達こそ後悔のない人生を送るために目標について真摯に考えるべきだと思います。今から真剣に考えて立てたその目標が、きっと未来への羅針盤となって私達を導いてくれるはずです。ご清聴くださいましてありがとうございました。

私のヒーローが皆さんへ

高等部 김하민 (金河旻, KIM HA MIN)

皆さんは自分のヒーローがいますか？私は中学1年生のときからずっと憧れるヒーローがいます。

Radwimps 略して'ラッド'というロックバンドです。

小学校の友達とばらばらになり、新たに中学校に入った私は、他人に話しかけられるのが怖くて、物事に自信がありませんでした。そして、結局私はいじめられるようになりまして。悩みを聞いてくれた母はだんだん疲れいき親身に相談に乗ってくれた昔の友人も話を流すようになりまして。仕方なく私は私の感情を心の底にぎゅうぎゅう詰め込みました。

毎日、学校へ行くことがつらくなり、やがて死にたいと思うようにまでになりました。そのような時、わたしはラッドの歌に出会いました。その歌の名前はまさにその時の私に必要な'救世主'でした。

'君がいなくなったらきっと世界は終わる。だって世界は君の中にしか生きれないから'

'君がいないと、ここにいないと何も無いんだよ。そう、君は今日もこの世界を救ったんだよ。' その歌を聞いた瞬間涙が出てきました。勿論、私個人に向けて書いた歌詞ではありませんでしたが、それでもその歌詞は私を確かに救いました。その時以来、私はラッドを好きになり、ラッドの歌に励まされて、学校生活の一年間を耐えることができました。

ラッドを好きになればなるほど、彼らの歌詞を単に覚えて歌うより歌に使われたダシャレ、表現、感情を日本人のように理解したいと思うようになりまして。'もっと彼らに近づきたい！彼らと同じ言葉でしゃべりたい！'というその願いだけで日本語を本格的に勉強するようになりまして。勉強を重ねれば重ねるほど、韓国語に翻訳された歌詞を読むときよりはっきり歌詞の内容と彼らのメッセージがわかるようになりまして。

考えてみればラッドは本当に私の素晴らしい日本語の先生です。彼らの歌詞を通して、表現や文法、擬声語、擬態語など普段あまり見聞きできない言葉を教えてもらえます。その上、ダシャレ好きなボーカルのおかげで日本語でダシャレも言えるようになりまして。たどたどしかった日本語がここまで上達したのも全て、私のヒーローのラッドのおかげです。私はラッドを知ってとても幸せです。

今この場にいる皆さんも生きることがつらかったり、死にたいと思う方がいるかもしれません。

もし、そんな方がいるなら、ラッドの歌詞を借りて、次のようなメッセージを贈ります。「あなたがいないと、ここにいないと、この世界もないのです。」

私がこの場に立っているのはその言葉を忘れずに生きてきたからです。

どうぞ、皆さんも自分のヒーローを見つけ力を貰って下さい。

そしたら、いつの間にか変化していく自分に会うことができるはずです。

ご清聴ありがとうございました。

私の夢が私を変身させてくれました

高等部 김민형 (金民亨, KIM MIN HYUNG)

皆さん、こんにちは。大東税務高校、2年のキムミンヒョンと申します。

「私の夢が私を大きく変身させてくれました」私は中学校1年生までひどく内気で、小心者で何をするにも後ろ向きでした。その理由は私は精神的に障害があり、そのためか社会性にも劣っていて、外見的にも普通以下だと思っていたからです。それが、あるとき自殺を考えるほどにまで悪化しました。ですが、そんな残酷な日常を変えてくれるような出会いが突然生まれたのです。それはアニメーションです。もしかしたら、皆さんはこのアニメーション、通称アニメが、と不思議に思われるかもしれませんが、そのアニメがお医者さんにも決してできなかった私の心を大きく変化させてくれたのでした。アニメを毎日見るうちにいつの間にか、自分を信じて動く主人公を尊敬するようになっていました。彼らは皆一様に自分を信じることに一点の曇りもないのです。そして、彼らの言葉やそれに基づく行動を見ているうちに、私自身もきっと彼らのようなれると思い込んでいました。アニメーションと言う非現実的な世界のヒーローたちの言動なので、根も葉もないと言われても仕方ないですが、私はこれらの主人公みたいになりたいという夢を抱くようになりまし。そしてそれ以降は、その夢を実現するための人生を生き始めるようになりまし。ですが、それはやはり、残酷なほど難しいことでした。なぜなら、人はそんなに簡単に過去の自分を捨てられないからです。その上、私がヒーローのように行動しようとすればするほどその努力は他人にとっては滑稽らしく笑われる日々も多くありました。ですが、私は諦めませんでした。アニメのヒーローたちはどんな時も決して諦めないからです。すると状況は少しずつ良い方向に変化していきました。毎日、本当に少しずつですが変化していったのです。そして、その周囲の変化によって私もいつの間にか、周りの人々が「とても前向き」と認めてくれるまで、積極的な性格に変化していたのです。『何でもやればやれる』と思ってやってみるように性格が変わり、そのお陰で精神的障害も徐々に良くなりました。これもこれも全てアニメのヒーローのおかげです。その後中学校2年生になってからは、さらにアニメの主人公に近づきたいと考えるようになりまし。それは、困っている人に言葉を掛け、悩みを解決するだけでなくその後その人と友情関係を築くというものでした。そして、実際にそのような夢のような経験をする事ができたのです。二年の秋のある日、私はある寂しげに窓を見ていた男子生徒に声をかけまし。ヒーローはいつもそうしていたからです。'悩み事があるなら聞いてあげる。'と一言声をかけた私に、彼はその言葉を待っていたかのように一気に自分の悩みを打ち明けまし。その後、私は辛抱強く何カ月もかけて彼の話に耳を傾けまし。そして、やがて問題が解決された時には、何と私たちは知らず知らずのうちに親しい友人になっていたのです。また一つ、私はヒーローと同様の夢を叶える事ができました。

もう一つ、アニメに感謝することがあります。それは、私はある時ふと、私のあこがれるアニメのヒーローはみんな日本語を話している気が付いたのです。そこで、私もヒーローと同じように日本語を話してみたいと思うようになりまし。日本語の勉強を始めると、彼らのセリフがよりリアルに感じられるようになり、漢字を読むということが面白くなりました。その結果、アニメだけでなく日本の本も多く読むようになり、高校生2年生の今では、皆が認めてくれるほど日本語能力が上がりまし。そしてこのような私が今、新たな大きな夢を抱くようになりまし。

それは、日本のアニメの字幕翻訳をしてみたいということです。私は今まで述べて来ましように本当にアニメで人生を救われた気がし。ですので、一人でも多くの今苦しんでいる若者が同じようにアニメの中のヒーローの積極的な言葉や行動で勇気や励ましを受けてもらいたいと思うのです。アニメにはそれだけの力があると信じているからです。ご清聴ありがとうございました。

4泊5日の友情物語

高等部 민유정 (閔裕禎, MIN YU JEONG)

突然ですが、皆さんは友情を築くのにどれくらいの時間が必要だと感じられますか。

最低1年、それ以上でしょうか。

有名な西洋の諺の中に、“親友とワインは、長ければ長いほど良くなる”という諺があります。これは、親友は長く付き合うと、友情が厚くなり、ワインは長くなるにつれ、深くて香しい香りを放つ高級ワインになるという意味です。やはり友情には時間が必要だということでしょうか。

これから皆さんに聞いていただくスピーチは、4泊5日というほんの短い時間であっても深くて意義深い友情を築くことができるという私の経験です。私は京義道・高陽市・加佐高校から参りましたミン・ユジョンと申します。よろしくお願いいたします。

私は中学3年、高校1年と、韓国のある青少年団体が主催する「韓日 青少年 交流 プログラム」に2年連続で参加しました。この交流プログラムは、韓国と日本の双方の学生がお互いの国でそれぞれ4泊5日宿泊し、その国の文化を自ら体験するという企画です。

私は中でも二年目に出会ったパートナーの「アキ」との友情が、私にとってかけがえのない者になりました。私たちは、初め、お互いのことを私は日本語のできる高校2年生であり、アキは韓国語が少しできる高校3年生ということしか知りませんでした。当日、私は初対面で気まづくなったらどうしようと心配していましたが、アキと出会って、その思いはすぐに取り越し苦労だということがわかりました。アキは、初対面から気さくで、私が緊張していることに気づいて細やかな配慮を示してくれました。そのおかげで、私は自然と心を開くことができ、自分でも不思議なくらい積極的に自分のことを話し、アキについて聞きたいことをためらうことなく聞くことができました。

そのような会話の中で、アキのお母さんが在日韓国人3世で、私の母とアキのお母さんの故郷が同じだと言うことがわかりました。私は、アキの中に同じ民族の血が流れていることや母親同士が同じ故郷と言うこの事実に感動し、アキにさらに親しみを感じるようになりました。

アキと私は4泊5日の時間を惜しむかのように寝る間も惜しんで話し続けました。好きな芸能人、音楽と言った軽い話から、自分たちの将来や他の人には決して言えないような悩みまでも率直に話したのです。そのような会話はやがて、私にとってアキが韓国で築いたどんな友情関係よりも大切に心地よいものであると感じさせるようにまでになりました。

そして、今も私たちはその時と変わらず、ラインやツイッター、スカイプと言ったデジタル機器を駆使して、お互いの近況や悩み事を話し、友情を深めあっています。

勿論、時にはニュースに出るお互いの国事情が原因で、会話がぎこちなくなる時もありますが、私とアキはそういう時こそ、お互いの本音を素直に話し、理解するように努めています。

最後になりますが、私は今でも、三年前の韓日交流会に参加できたことに本当に感謝しています。最初はわずか4日で外国人と何が分かり合えるのか疑問でしたが、今では皆さんの前で、はっきり言うことができます。それは、アキは私のかけがえのない親友だということです。

ご清聴ありがとうございました。

お祖父さんへ

高等部 이가영 (李佳映, LEE GA YOUNG)

みなさん、こんにちは。梨花女子高校、3年の李佳映と申します。

私は今回、今は亡き祖父に宛てた手紙形式でこのスピーチに臨むことにしました。祖父は2011年に他界しましたが、今でも私の大切な祖父であり、教師であり、心の拠り所です。これから、その祖父に親愛の情をこめてスピーチしたいと思います。

お祖父さん、お元気でしょうか。私は佳映です。ここソウルは今、夏を迎えています。そちらはいかがでしょう。

実は、先週、家の掃除をしていた時、倒れていたお祖父さんの写真を見て弟が " あっ、大切な写真だから早く元通りにしないと！ " と言いました。お祖父さんが亡くなった時、弟はわずか8歳だったのに、彼がそのようなことを言うなんて私は本当に驚きました。

お祖父さん、私たちがいつから一緒に暮らすことになったか覚えていらっしゃいますか。私が小学校1年生になった時です。家では私とお祖父さん、二人でいることが多かったですね。お祖父さんは幼い私に多くのことを教えて下さいました。私が今でも覚えているのは、数々の生まれて ' 初めて ' の経験です。その中でも私が一番印象的な " 初めて " の経験は、出前の注文の仕方です。お祖父さんはただ一言私に 「ここに電話して、出前を頼みなさい」 と言われました。そこで私は言われる通りに電話して注文し、最後に 「この住所、知ってますよね?」 と聞き、お店の人に笑われました。今でも思い出すと顔が赤くなります。また、こんなこともよく覚えています。お祖父さんが私を怒る時、本当に怖かったです。私の泣き顔覚えていますか。また、幼い私にとっては難しいと思うようなお使いも度々ありました。その度に恨んだこともありました。ですが、今は確信しています。それは、あなたが私をかけがえのない孫だと感じ、愛して下さいましたことです。

2011年のあの日、私は初めてあなたのお葬式に行きました。もうお祖父さんがこの世にいらっしゃらないということが信じられませんでした。その日、私は生まれて初めて自分でも驚くほど大泣きし、生まれて初めて死 ' というものを実感しました。そして、あなたと暮らした10年という時間がこれほど私にとって大きいことだったのかその時初めて実感しました。最後の最後までお祖父さん、あなたは私の先生でした。そんなあなたにもっと良くしてあげられなかったことを後悔しています。

今もわが家ではお祖父さんがいらした時と変わらず、祝祭日には20人を越える大家族が集まって楽しく過ごしています。以前より家族が増え、もっと賑やかになりました。いまだにずっとこの大家族が仲よく過ごせるのは全部お祖父さんのお陰だと思います。私はもう高校3年生になり、来年には成人になります。全部ご存知ですね。私もいつもお祖父さんが私を見守ってくださると信じています。

会いたいです。お祖父さん。

佳映より

日本語、その終わりなき道

高等部 김현재 (金賢在, KIM HYUN JAI)

皆さん、こんにちは。韓国観光高等学校3年生の金賢在と申します。今日、私はみなさんに言語の役割と、それに対する私たちの心得について話したいと思います。

では、まず始めに一つ、質問をさせていただきます。みなさん、りんごを想像してみてください。そしてそのりんごの特徴、例えば色を、言葉や文字を使わずに説明することができますか。いかがですか。これは相当難しいことなのです。

さて、私たちが言語を使っている理由がここに 있습니다。動物の中でも、言語を使うのは人間だけです。ですがそれは人間が生き物の頂点に立っているからなどの理由からではなく、単に必要とされたから生み出された結果なのではないでしょうか。意思疎通が曖昧なままで全ての物事がうまくいくなら、私たちは喋らずに済んでいたのかもしれませんが。「自分を正しく伝え、相手を正しく理解する」これが言語の機能であると同時に役割でもあります。まずはこれを覚えておいてください。

では、話を少し変えてみましょう。韓国にとって日本とはどういう国でしょうか。同じアジアの国であるという地域的観念だけでなく、文化や思考などの点から見ても共通する部分が多くあります。そして同時に、最も誤解や偏見の多い国でもあります。日本と韓国は接点が多いだけに接触の多い国です。今、両国が分かりあえないのは、接触の割に言語の役割がなされていないからではないのでしょうか。

私たちは韓国人でありながらも日本語が使えます。韓国では、日本を紹介する立場であり、日本に行けば、韓国という国を代表する立場にもなります。だからこそ私たちは、油断してはいけません。

言語は「知って」終りではなく、「出来て」いてこそ、その役割が果たせるのです。自分を正しく、相手を正しく。言語の基本目的であるコミュニケーションが揺れている状態であれば、私たちは「出来て」いないのです。複数の言語が使える皆さん、私たちの「出来て」いる言語は一つでもあるのでしょうか。

最後に、私と同じように、日本語を勉強している皆さんにお伺いします。勉強に終りを決めてはいないですか？日本語をマスターする、日本語を勉強し終える、そういった表現は果たして正しいのでしょうか。本当は私たちが軽い気持ちで飛び込んだこの道に、終りなどはなかったと言われたらどう思いますか？心の中で決めつけていた終りは、おそらく終着点ではなく、自慢はできるが、実は諦めていた地点ではないのでしょうか。「日本語」という終わりなき道からおりてしまうか、一生の旅路にするかは、もう各々の手にあると思います。

ご清聴いただき、ありがとうございました。

マスコミの罫

高等部 박인혜 (朴仁慧, PARK IN HYE)

皆さんこんにちは、私はハムジ高校のパク・インヘと申します。突然ですが、近所隣のAとBの話をしたと思います。Aがある人にBが自分の悪口をしたことを聞きました。Aはどうすると思いますか？普通にはAもBに対して悪い感情を持つようになり、Bについて悪い話をするでしょ。そしてこのBに対する悪口を聞いたひとがBに行ってAがBの悪口をしたことを知らせます。BはまたAに対する悪口を言い、それをきいた人がまたAにその事実を知らせる。これがずっと繰り返されれば最後にはAとBのお互いに対する悪い感情は頂点に達し、二人の感情は引き返せない状態に至るかもしれません。AとBが誰だかわかりますか？それは、韓国と日本です。でも私はAとBではなくその間で、悪口をしたという情報を伝えるある人に対して話したいと思います。

最近ワールドカップがありましたね。韓国対ロシア予選覚えてますか？ロシア戦が終わったあと、それに関する多くの記事があがりました。その中には日本の反応に関する記事も結構ありました。その記事の内容は日本人が「ロシアを応援した」「ただ運がよかっただけで、実力じゃない」「ロシアがゴール入れたとき嬉しかった」といった話をしたということでした。それをみた韓国人は怒り、コメント欄は日本人に対するひどい悪口が殆んどでした。でも実際に日本のウェブでのコメントを読んでみたら、勿論韓国に対する悪口もありましたが、「韓国頑張ったね、日本ももっと頑張ればいいのに」「運も実力だね」などの肯定的なコメントも多くありました。これだけじゃありません。フィギュアスケートや野球などのスポーツで特にひどいと思いますが、日本のウェブで悪口だけを集め、まるで全ての日本人が韓国を嫌い、無視するように表現した記事をよく見かけます。そんな記事だから韓国人が怒るのも無理ではありません。日本も同じです。韓国の悪い反応だけを集め、それを読んだ人達は怒って韓国に対してひどい悪口をします。このようなことがウェブでは頻繁に繰り返されています。これに対して私が批判したいのは、まるで悪口を言いなさいというように悪い反応だけを集め記事を出すマスコミです。日本のウェブでのコメントを無理なく読めるほど日本語が上手な人は韓国に、そうはいません。日本の中で韓国のウェブのコメントを自由に読める日本人も多くはいません。お互いの言葉を知らない人達がお互いの反応をしる方法は、両方の言語がわかる人を介して伝え聞くことで可能になります。でもその話を伝える側にいるマスコミは高いヒット数のために刺激的なタイトルをつけ、その内容も熱い反応のために事実を縮小・拡大したり歪曲し、日本は韓国を嫌っている、韓国は日本を嫌っていると伝えようと熱心です。そのせいで両国の国民たちの持つお互いの国に対するイメージはどんどん悪くなる一方なのだと思います。そんな記事を出した時だけは高いヒット数、熱い反応を得られるかもしれませんが、互いが互いを嫌っているという認識だけを強くし、両国の協力や理解を妨げていると思いませんか。

大体の人は外国に住んでみたことないし、深い交流を経験してみたことも少ないので国や国民に対するイメージは他の情報によって作られるものです。その情報を提供するマスコミが一つの国を敵として認識し、敵対的なニュースをだせば、その情報を受ける側の人にはマスコミの認識をそのまま受け入れてしまうかもしれません。それが重なり、繰り返され両国はどんどん離れているのではないのでしょうか。

でも私は一つ、肯定的に思うことがあります。マスコミの影響力が下がり、個人のブログやSNSが小さなマスコミとしての国を越え影響力を持つようになりました。なので私はブログやSNSを利用し、情報に手を加えず、ありのままのことを知らせたいと思います。本当は全ての日本人がマスコミの言っているように韓国人を嫌っているわけではない。むしろ韓国を好きな人がたくさんいること、日本にも同じように知らせたいです。お互いがお互いを嫌っているだけではないと。その思いが両国の新しい関係の第一歩になると信じています。ご清聴ありがとうございました。

小さいけど大きな夢

高等部 조현흠 (趙賢欽, CHO HYEON HEUM)

皆さん、こんにちは。私は上溪高校三年、趙賢欽と申します。

突然ですが、皆さんは先日の韓中の首脳会議の場面をテレビでご覧になりましたか。その時、大統領の斜め後ろに座っていた男性を覚えていらっしゃいますか。どんな人だったか、覚えている人はまず少ないと思います。まさに彼は縁の下の力持ちだからです。ですが、実はこれから私がお話しする私の夢はまさに彼、つまり通訳士になることなんです。私は去年の三月に友人に勧められるまま、日本語を始めました。当時は進学のことにも悩んでいましたが、まさかその時はその日本語が私の将来に関わるとは全く考えていませんでした。日本語勉強を始めてみると、新鮮な驚きがありました。何と言語にはその国その国の趣が十分込められているのです。これは言語を学んだものだけが感じられる独特の情緒感とも言えるかもしれません。私は生まれて初めて勉強が楽しいと感じました。読むことも聞くこともできなかった外国語が少しずつ確実に分かるようになる時の気分は本当に最高でときめきました。そして、これなら楽しみながら勉強ができそうだと確信しました。ある時、私が日本語勉強をしている様子を見て、日本語専攻の道を紹介してくれた友人がいました。ですが、私は、すぐに「そうだ、それだ」とは思えませんでした。

いや、もしかしたら、そう考えたくなかったのかも知れません。なぜなら、日本語を進路と決めてしまえば、今まで味わったことのない勉強の楽しさが失われてしまうかもしれないという恐怖があったからです。その後、進路のことで悶々と考えつつも、日本語は一生懸命勉強して、JLPT N1 試験に見事合格しました。そしてここで初めて進路について真剣に考えるようになりました。せっかくここまで頑張ってきたのだから、日本語の能力を生かした仕事がしたくなりました。ネットで検索したり、学校の先生と相談したりして、色々調べてみた結果、通訳士という職業を知るようになりました。皆さんは通訳士と聞いてどんな仕事をイメージしますか。通訳士の仕事の大変さを物語るこんな一言があります。「通訳の勉強を怠けると、明日は自分が気付き、明後日は相手が気付き、明々後日は皆が気づく。」私はこの言葉を聞いて通訳士には引退がないのだと知りました。これは以前からサラリーマンではなく何か一生をかけて極めるマイスターのような仕事に就きたかった私にはうってつけでした。また、通訳の魅力はまだあります。

それは言葉を伝えるのではなく心と心をつなぐ仕事だということです。言い換えれば、通訳士とは、両国の情緒に考慮しながら、話し手の意図を聞き手の思いに正確に届けるという、まさに芸術的センスが必要なのです。このように私にとってこの通訳士と言う仕事は知れば知るほどまさに魅力的な仕事なのです。

現在、世界がグローバル化していく中、自国の言語を守っていこうという意識も強まっています。言語はその国の文化であり、アイデンティティであり、誇りです。ですので、各国の言語は決して共通語の台頭によってなくしてはならないのです。私は少数民族の言語が無くなっていくことにひどく心が痛みますが、私がこの通訳士となって多くの言語を学び、それを継承していくことで、きっと素晴らしい社会貢献ができるかと確信しています。今はその夢を実現するために目標の大学の通訳学科に合格できるように日々日本語を学び続けています。来年の今頃はきっと日本語三昧の大学生となり、今日この日のスピーチを懐かしく感じていると思います。

ご清聴ありがとうございました。

人類と宇宙

高等部 박태욱 (朴太旭, PARK TAE WOOK)

皆さん。初めまして。私は仁川シンソン高等学校3年のパクテウックと申します。今日のこのコンテストに参加できて本当に光栄です。

私は現在受験勉強を通して、環境問題、戦争や犯罪、若者の就職難など世の中で起きている様々な出来事を生まれて初めて真剣に考えることになりました。そして、その問題一つ一つの解決策がいかに難しいかを痛感し、私たちの世代になる頃には、どんな生きにくい世界が来るのだろうか、と悲観的な気持ちにさえなりました。その様な中で、唯一宇宙開発が私の希望とロマンとなり、是非このテーマで話をしたいと思うようになりました。

「一人の人間には小さな一步に過ぎないが、全人類にとっては巨大な跳躍となるだろう。」これはアポロ宇宙船に乗って月に着陸したアメリカの宇宙飛行士、ニールアムストロングが月に第一歩を踏み入れた時に発した有名な言葉です。彼の言う通り、彼が踏み出した小さな一步は人類全てにとって大きな飛躍となりました。ですが、まだ多くの人々はこの宇宙開発に対して懐疑的な見方をしている方も多くいます。皆さんはいかがでしょう。宇宙と私たち人類がどのように繋がっているか考えたことがありますか。

確かに、科学の最高峰と言われている宇宙開発は莫大なコストを必要とします。例えば、ロケット一基を打ち上げるのに必要な費用が一国の財政予算に匹敵する場合もあります。ですが私は、是非とも積極的に宇宙を開発すべきだと思います。

その理由を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

例えば、宇宙衛星です。衛星には、気象衛星、通信衛星、放送衛星、航行衛星などがあります。これらの衛星によって、現在、私たちは翌日の天気を予想し、友人にメールで話し、テレビを見、行きたい場所を探ることができるのです。皆さんの中で、今日これらの一つも利用しなかったという方は恐らくいらっしゃらないでしょう。また、宇宙開発は医学分野でも大いに貢献しています。宇宙はご存知の通り、無重力です。その環境を生かし、宇宙飛行士たち眼球の移植や、白血病の治療の実験などを積極的に行い医療の質の向上に努めています。時間の関係でこれ以上は話せませんが、今述べた二つだけでも宇宙開発は、私たちの将来の問題解決の糸口になります。

例えば、「高齢化」、これは年々深刻化する問題です。この問題に対処する一つの方法としては、これからは年配の方にデジタル機器を上手に使ってもらい、労力を使わず、なるべく自分で日々の生活を営んでいってもらう必要があるでしょう。また、医療の充実は病気のお年寄りを減らす重要な役割を担います。いかがでしょうか。このように考えていきますと宇宙開発がいかに将来の私たちの安心の備えになるかご理解して頂けたのではないのでしょうか。「一人の人間には小さな一步に過ぎないが、全人類にとっては巨大な跳躍となるだろう」。皆さんも是非一度、宇宙に目を向けて見てはいかがでしょう。きっと、将来に夢や希望が抱けると思います。

ご清聴ありがとうございました。

真のボランティア精神

高等部 최석원 (崔碩原, CHOI SEOK WON)

皆さんはボランティアといえば何を思い出しますか。

中学校三年生の私の妹は「点数」と言います。

友達たちは「老人介護」と言ったり「面倒くさいこと」と言ったりします。

周りの人から見るとボランティアって自分の意志とは関係なくスペックを積むためにすること、ただ苦勞をするイメージが強そうです。

私も中学校二年生まではそんなように考えました。しかし、中学校三年生になってその考え方は大きく変化しました。まだボランティアについてはわからないものばかりだった中学校三年生のある日のことです。学校が終わってから忘れ物を取りに教室に戻ったことがありました。そのとき教室の中で担任の先生が一人で何かをしていらっしゃいました。何をいらっしゃるんだろうかと思いながら教室に入ってみました。先生は一人で掃除をしていらっしゃいました。私は先生に掃除当番が掃除をサボったのかと聞きましたが、「いや、そうじゃない」と言いました。

よく考えてみれば誰も真剣に掃除をしないのに教室はいつも綺麗だったのは毎日先生が私たちが家へ帰ってから教室に残って掃除をしてくださったからでした。その日から何の報いも望まず、誰かに認められるためでもない、ただ、子供たちがもっと快適な環境で生活することだけを望んでいて行動で実践している先生を心の底から尊敬するようになりました。

その日から真のボランティアは自ら何の補償も望まず、ただ、人を助けることをうれしく思い、その中で幸せを見つけていくことをわかりました。私は自分がやれることから一生懸命がんばりました。学校に残って教室を掃除すること、友達が困っている問題の解決の方法と一緒に探ること、友達が知らない部分を一緒に勉強していくそのようなことから始めました。

ボランティアをすることがどんなに価値があり、自分を幸せにしてくれるかをわかる前の私は自分が勉強をする目的をわからないまま生きてきました。しかし、中学校三年の担任の先生と出会ってどのようなボランティア精神が真のボランティア精神であるかがわかるようになりました。また、どうすれば人々をもっとよく手助けすることができるかが私が勉強をする基準となりました。

今になって私は胸を張っていえます。私が勉強をする理由は私が知っている真のボランティア精神を実践するためであると。

最後にこの言葉を引用して終わりたいと思います。

福沢諭吉曰く「実なき学問は無学に等しい」私は自分が学ぶことの意味を人とともに生きる世界を作ることと置きたいと思います。

グローバル

高等部 허별 (許ビヨル, HEO BYEOL)

とある番組で興味深いテーマの実験がありました。実験は簡単です。外国の人が道に迷っているような顔で地図を持って町の中をうろろしている時、もしくはその人に直接声をかけられた時の反応を見るのでした。これで私たち、韓国人の外国人に対する態度を見ることができます。ただし、実験は白人の場合と東南アジア人の場合に分けて行われました。

結果は驚くべきものでした。白人の場合、うまくない英語で、ボディランゲージを使ってでも手取り足取り教えた人々が、東南アジア人の時は眉をひそめて終始知らんぷりでした。もちろん人種によらず「ノーイングリッシュ！」という答えだけを繰り返す人もいました。

近年、科学技術の進展で、私たちは簡単に世界の情報やモノを手に入れられるようになりました。世界各国の間の境界線がどんどん薄くなり、世界が一つの村ようになっていく、それが今の「グローバル時代」だということを皆さん良くご存じだと思います。

例えば、今は制服姿ですが、私の私服のお気に入り、上着はアメリカ製で、ズボンは韓国製、靴は中国製です。このように私たちが知らないうちにもグローバルは私たちの生活に浸透しているのです。

では、皆さん。皆さんは先の実験の結果を考えた時、果たしてご自身が「グローバル時代」に相応しい態度をお持ちになっていると思いますか。私はそうではないと、まだまだ道のりは遠いと思います。他国の文化やモノと接していながらも、私たちは外国人を「隣人」のように感じていないのです。

世界は非常に早い速度で変化しています。私たちの世代は以前とは違います。韓国だけが私たちの舞台ではありません。私たちの舞台は「世界」です。それなのに、私たちのマインドはその変化に馴染まないままの状態です。

また、このような差別が原因である暴力事件などが起こり、社会的に問題にまでなっています。これは唯に韓国の問題であるのみならず、世界中のどの国からもよく見かける社会問題のひとつです。言い換えれば、私たちもこのような差別の対象となりえるのです。

皆さん、私たちから変えて行きましょう。一気に変わるのを求めるのではなく、ゆっくり些細なことから変えて行きましょう。まず、外国人に会ったら、違う外見にとらわれ、排他的な態度を取るのではなく、地球というひとつの村の中と同じ住民だと思い、気さくに接しましょう。私はこういう認識を変えることから始めるのが非常に大事だと思います。こうすることによって、私たちの手で本当のグローバル時代を作り上げられます。

お互いにやさしい、お互いを理解し合える、また、お互いの可能性を広げる、そういう時代を開いていきましょう！

ご清聴、ありがとうございました。プイル外国語高校、3年、ホ・ビヨルでした。

私の夢と日本

高等部 홍성화 (洪聖和, HONG SUNG HWA)

こんにちは。はじめまして。ソウル大眞高等学校1年、ホン・ソンファです。

まず、このような席に立ててとても光栄です。

スピーチをするテーマは「私にとっての日本」です。

日本についての話をする前に、まず私の話をしようと思います。私は小学校の時からずっと同じ夢を追いかけています。実は、私は友人たちと少し違う幼少時代を過ごしました。幼い頃は山と海に囲まれた自然の中で自由に遊びまわっていたため、私はハングルを小学校に入学する直前の6歳のときに学びました。そして、小学校に入ってから、昆虫の魅力にすっかりはまり、優しい父の力を借りて、父と一緒にハサミムシや長寿カナブンなどの昆虫を採りに行きました。夏になるたびに、光を見て集まってくる習性を持った昆虫を採るために深い山奥の街灯や田舎にあるガソリンスタンドなど全国のあちこちを回りました。このような環境は私に「昆虫学者」になること夢を夢見させるようになりました。中学校になると私の家は動物園であるかのように様々なペットがいるようになりました。このように小学校時代は昆虫と一緒に過ごし、中学校のときは珍しい動物と時間を過ごしたため、最終的に将来の夢は「生物学者」になりました。

ですが、この夢がさらに飛躍する出来事がありました。それは日本のアニメとの出会いです。

それ以来、日本のアニメにどっぷりはまってしまった私の生活パターンは食べるか動物の面倒を見るか、日本のアニメを見るかという単純なパターンにおちいってしまいました。

ですが、これにもいいことがありました。このアニメを視聴するおかげで、中学3年生の頃には字幕なしでも日本語がわかるレベルになりました。

そして、この日本語は私の夢をさらに具体化してくれたのです。

何と私の大好きな日本は生物学が韓国より何倍も進み、発展しているということがわかったのです。

そこで、大学に入ったら、いつか必ず生物学の分野で日本へ研修に行きたいと思うようになりました。

その後、高校に入ってから私の日本語熱は冷めることはありませんでした。漢字で苦労していますが、もう日本なしで生きていけないと思います。

現在、お互い名前呼び合うほどの日本人の友人もいます。また、生物学も続けています。この努力が、いつか実を結び、私が日本で生物学を学び、その成果を韓国で花開かせることができたらと思っています。韓国はまだまだ、生物学では世界を追う立場です。そこで、私が日本と韓国の懸け橋となり、いずれは日本を追いこす世界的な生物学者になりたいです。最後に私のスピーチを聞いてくださったすべての方々に感謝します。ありがとうございました。